

国語プリントNo. ()

年 組 番 名前

配布日 月 日 曜

皆さんにこれから求められる文章は書いてあることがダイレクトに伝わる文章である。入社、入学試験の作文や小論文。就職してからの企画書、報告書、連絡書などがそれにあたる。職業作家やコピーライターのようなレトリック(修辞法)を駆使した感性に訴えたり、回りくどかったり、謎の多い文章は仕事をする上でほとんど必要ない。これから「文章講座」ではこのような実用文を修得していく。

文章講座 ～ナンバリングとラベリング～

文章を読む時、混乱するのは、「これは何について書いてあるのか?」ということがわからないことだ。読んでいて何について書いてあるのかわからないのは、書き手の読み手に対する「思い遣り」が無いからである。

逆に、文章を書くとき、何を書いていいのかかわからなくなるのは、「自分は何について書くのか?」というのを書いているうちに忘れるからだ。そこで、読み手に読みやすく、書き手が書きやすく文章を作成する一つの方法として「ナンバリングとラベリング」がある。

ナンバリング

人間不安になるときは、「今、自分がどこにいるのかわからない。」というときである。文章も同じである。「今、全体のどこら辺を読んでいるんだろう?話は続くのか、もう終わりなのか?」という不安を与えていては、伝わるものも伝わらなくなる。そこで効果を発揮するのが「ナンバリング」である。

「ナンバリング」とは、「ナンバー」を付けることである。ただ付ければ良いということではない。まず全体が何番まであり、今は何番目かを示すのがナンバリングである。

私には好きなことが三つある。一つ目は寿司屋やカレー屋や焼き肉屋に行き、ご飯を食べることで、二つ目はゲームをしたりマンガを読んだりサッカーをしたりすること、三つ目は授業中や家に帰ってからすぐや、夕食を食べて風呂に入ってから布団に入って目を閉じることだ。

とした場合、「三つある」と全体像を示し、「一つ目は……」というように全体の中での位置を示すことよって、読み手は「今、全体の何番目だな」ということが分かる。縦書きの場合は「一、二、三……」と漢数字を用いるが、横書きの場合は算用数字を用いる。

ラベリング

しかし、上の例文は、まだ読みにくい。「一つ目、二つ目……」とはいっても、「結局一つ目は何だったかな?」とすんなり頭に入ってこないからだ。そのために話の内容に「ラベル」を付けるのが「ラベリング」だ。「ラベル」は、飲み物のビンに何が入っているか貼ってあるシールのことだ。シールを見れば何が入っているかすぐにわかる。「ビール」と書いてあったり、「ジャム」と書いてあったり、「毒」と書いてあったりする。文章にも「ラベル」を付ける。そしてラベルごとに改行すれば段落が完成する。ラベルは長すぎても「ラベル」にならない。目安は10文字以内(6文字以内であれば最適)だ。

私には好きなことが三つある。一つ目は食べることで、二つ目は遊ぶこと、三つ目は寝ることだ。

一つ目の食べることに説明する。私は回転ずしやカレー屋や焼き肉屋に行つてご飯をよく食べる。

二つ目の遊ぶことについて説明する。私はテレビゲームをしたり、マンガを読んだり、友人と公園でサッカーをしてよく遊ぶ。三つ目の寝ることについて説明する。私は授業中や、風呂に入りながらや風呂から上がってからや、朝起きてからよく睡眠をとる。

以上で四段落の文章ができた。第一段落は全体の構成。第二段落以降は第一段落で示したラベルをラベル一つに対して一つの段落で詳しく説明するだけだ。ラベルをはじめに考えておけば、何について書くのか忘れることもない。こんな「型」を導入するだけで、書きやすく、読みやすくなる。以上のことはスピーチでも使えるので身につけよう。